



白樂天

曲出二程
位中強居

抑是也唐乃天子之賓客白樂天と
 へ我るなりち母と是も東子也因て
 國あつらんを日本と名はくばるは似
 ちよつてるが日比乃智惠をさるれとの
 宣るあまの勢唯と海路より越ん
 舟漕ゆる日入もよるがくさゆり花

國と書き 海路をぬかひ
行舟のくゞ 松よ入日影 雲の
旗手の天津を月まゝ 出るを方る
山にしろめくほらなく 日中れ地あり
急よきりく 海路をへて 急い
程の目くも日中の地よきて 物智
汝可よ破とあり 日本の中と詠め

もよと海作 松よぬひの築紫の
海に初ほもき月のとゆる 菊多り那
湖水満とて 碧浪天をひく 松を
辞きく 荒蕨の扁舟よ 棹をうつ 松あり
だ 湖の煙の浪をどかく やととあり 松あり
きく 松あり 面白の海とを 松あり
西よ山あり 松あり 月の入雲もほひ

あゝくまの思ふ程と 日中おぼえ
さうすゝて 樂天もあつたよ(まじり
ぞいあまねき日の中よ西をなめて
仲の方ちよおんまのいんまの
やうれそこまのいんまの 上言
松浦舟く 中よりいんまのいんまの
おろし船のいんまの 樂天とあつたよ

いんまのいんまのいんまのいんまの
唐人あつたお言はれよいんまのいんまの
あゝくまのいんまのいんまのいんまの
釣つた いんまの ねと書あつたいんまの
舟をいんまのいんまのいんまのいんまの
日中よあつたいんまのいんまのいんまの
唐よりいんまのいんまのいんまの いんまの 唐より

と後くは禮亭より卷録天皇の御書
と云々和國高天寺より七人の御書
移し乃云のは行端の梅より云々の
ありて身書と云々の初陽母朝多不
相違中柄と云々文字より云々の
三十一の言はあり
初陽の御書より云々の

あつてはか入の柄より云々の
の書しよと云々の
類聚大考にて云々の
ありて海濱の書より云々の
かゝる書しよと云々の
上巻に
云々和國の俗の
海士人の書しよと云々の

和國のもてあきひ和歌と詠て舞
歌の曲ごう多とあはれこ
舞樂を遊びてはまほち舞あは
誰かくとも清賢とよ我まあは
汝舞樂の音笛を龍の
吟とあき舞人の汝射るたるこの
うよまうつと海は浮ひつと海を樂を

まよらちや 声あは 國を動し
萬代はま 山陰のやうまのまは
海乃 浪の敷れ海青樂 西表海
あはまの原の坂向うちあは
住吉の神まかすのあはまの
あはまのあはま 住吉表 しまの
神のあはまのあはま 程あはまの日あは

十

ゆや

曲出二拍子ノ歌
位律曲ノ半ヨリ立

早泊

ノシシト

風は多平乃宗威也借もまの國地田の

宿乃長と以湯谷と申作づく都子

留め直く作か若母乃の思るまやとく

度と眺と乞く去汝まらちれ記かのみ

交と思のさくめ直してのぐるま報りあふ

河前あふノキ 遊屋あうてつらつ洗方へ

ら〜あ〜花〜ありきり
水乃まよ〜とめられ
山乃まよ〜あつま路〜そめひ〜山
きめ〜き〜あ〜あ〜
あつて花乃開くるも早し秋乃
霜乃あつて落葉乃山外乃山
て山あ〜路中乃道杉乃あつてみら

撫子あ〜山青く山あ〜
雲来去〜人あ〜と静〜
と乃方極乃わ〜誰ら〜
笑長閑ある東山〜四條乃橋乃
う〜若者乃貴賤部部乃
先く祀衣袖〜つ〜行〜
み〜八重乃〜丸守乃〜

多しはよきまのきりやく ^{上皇地} 何良
わきそとさる ^ア 心 ^ア ま ^ア り ^ア ち ^ア く ^ア 心 ^ア の ^ア 福 ^ア も ^ア ち ^ア
車入路 ^ア ち ^ア の ^ア 地 ^ア 蔵 ^ア 堂 ^ア 寺 ^ア 一 ^ア
^ア 観 ^ア 音 ^ア も ^ア 同 ^ア 心 ^ア あり ^ア 闍 ^ア 提 ^ア 救 ^ア 母 ^ア
^ア 方便 ^ア あり ^ア 心 ^ア あり ^ア 心 ^ア あり ^ア 心 ^ア あり ^ア 心 ^ア あり ^ア
也 ^ア 守 ^ア り ^ア の ^ア 末 ^ア も ^ア 心 ^ア あり ^ア 心 ^ア あり ^ア 心 ^ア あり ^ア
命 ^ア ち ^ア ら ^ア 玉 ^ア の ^ア 受 ^ア 家 ^ア の ^ア 寺 ^ア あり ^ア 心 ^ア あり ^ア 心 ^ア あり ^ア 心 ^ア あり ^ア
也 ^ア 守 ^ア り ^ア の ^ア 末 ^ア も ^ア 心 ^ア あり ^ア 心 ^ア あり ^ア 心 ^ア あり ^ア 心 ^ア あり ^ア

六道 ^ア の ^ア 心 ^ア あり ^ア 心 ^ア あり ^ア 心 ^ア あり ^ア 心 ^ア あり ^ア 心 ^ア あり ^ア
冥途 ^ア あり ^ア 心 ^ア あり ^ア 心 ^ア あり ^ア 心 ^ア あり ^ア 心 ^ア あり ^ア 心 ^ア あり ^ア
煙 ^ア の ^ア 末 ^ア も ^ア 心 ^ア あり ^ア 心 ^ア あり ^ア 心 ^ア あり ^ア 心 ^ア あり ^ア 心 ^ア あり ^ア
た ^ア る ^ア 心 ^ア あり ^ア 心 ^ア あり ^ア 心 ^ア あり ^ア 心 ^ア あり ^ア 心 ^ア あり ^ア
花 ^ア も ^ア 心 ^ア あり ^ア 心 ^ア あり ^ア 心 ^ア あり ^ア 心 ^ア あり ^ア 心 ^ア あり ^ア
其 ^ア 瑠 ^ア 乳 ^ア 根 ^ア と ^ア 毒 ^ア あり ^ア 心 ^ア あり ^ア 心 ^ア あり ^ア 心 ^ア あり ^ア 心 ^ア あり ^ア 心 ^ア あり ^ア
ゆ ^ア き ^ア の ^ア 春 ^ア の ^ア 階 ^ア の ^ア 釣 ^ア の ^ア 道 ^ア あり ^ア 心 ^ア あり ^ア 心 ^ア あり ^ア 心 ^ア あり ^ア 心 ^ア あり ^ア 心 ^ア あり ^ア

まのくまうこの 車宿り 馬ゆくめ
たより花車ぢりぬる衣さうゆかた志
かまろりら路清水の佛表清あふ会
箱しで母の形様とやさま いくた
邦あぬ 河前よ作 湯谷を
くくよ有う 来は堂うりさ
行なく思あさるまたさうあひいあ

おとす作へ ぎくいりう子撞よ
おも花乃中の清酒毒のまわてい
あひてはしありあれたの清さあへん
心得のぢりうまのぢりあもとの
御酒毒のまわりて作。表さへは
あつあれたの清さあへん 行か
とも花酒毒のまわらうと申か

仏も中^ニ珍^ニ一^ニ々の^ニなる^ニは^ニ雲^ノよ^クら^ニこ
怒^ル勢^ノろ^クお^ノ山^ノの^ニろ^クと^ルお^ノと^ル寺^ヲち^ニ桂^ノ花^ノ
橋^ノ柱^ヲ立^テ出^テく^ニ峯^ノの^ニ堂^ヲ行^キや^ルあ^ルぬ^ニら^ウ
橋^ノの^ニ祇^園林^ヲ志^シ行^ク息^ヲ多^ク南^ノと^リら^ウ子^ノ
眺^ム色^ハ大^ニ悲^シ擁^護の^ニう^ニは^ニ露^ノ山^ノ也^ニ指^シ現^ノ
う^ニ修^リま^シひ^レ律^ノも^ト同^ク今^ノう^ニ度^ノの^ニ稻^ノ有^ル
表^シ山^ノう^ニと^リ紅^ノ塔^ノの^ニあ^ルを^トか^シら^ウ地^ノれ^ハ取^ル

ま^ニ花^ノの^ニ雲^ノ清^ク水^ノの^ニた^クま^ノの^ニ頼^ミ
し^ニま^ノも^トら^ウ花^ノの^ニち^ノ山^ノ表^ス心^ノ
奇^ノ羽^ノあ^ルぬ^ニ花^ノの^ニ地^ノの^ニ深^キな^ニま^ノを^ト
大^ニや^ルあ^ルぬ^ニ童^ノ御^ノ抄^ノ子^ノま^ノり^ノ作^ルへ^テ
か^クら^ウ子^ノゆ^え一^ニ指^シ舞^ス久^クか^クま^ノ情^ノと^ル人^ノ
や^ルぬ^ニな^ノよ^ク柳^ノ子^ノ村^ノの^ニよ^クて^ルぬ^レを^ト
教^シぬ^ニい^ハま^ノ空^ノと^ルむ^ニら^ウぬ^レ降^ルま^テ

逢坂の關の戸さうもろろよとてゆゆ
跡乃山かんとて花をさかとりつる鷹入玉装
うれち越路林ハまゝ新つまよりの
名残うれしく

甲門

和

是ち諸國一見の僧ありて我は沈む

都よりひとく洛陽の寺社のころなく

命をめらうて作ばし日くちと南都

しあつちもとさるるの和は海守ぬ白影り

花の都を様さくまゝおんあめり

志ろくめあて歌もほれ我もさやい

ゆるめ

曲か一程
佐宗立

下... 山... 宇... 見... ま...
下... 山... 宇... 見... ま...
下... 山... 宇... 見... ま...
下... 山... 宇... 見... ま...
下... 山... 宇... 見... ま...

て... 官...
て... 官...
て... 官...
て... 官...
て... 官...

さ... 祚... 多... と... 志... 乃... の...
さ... 祚... 多... と... 志... 乃... の...
さ... 祚... 多... と... 志... 乃... の...
さ... 祚... 多... と... 志... 乃... の...
さ... 祚... 多... と... 志... 乃... の...

色しうてむしらまのたむきたきまの藤
うかむしらまのたむきたきまの藤

甲子
あまの目くは女はま事戸(まきもろん

乙未
こまの事まていり付るあく佐そ

丙申
あまの目くは女はま事戸(まきもろん

てまを植給より不審よそそ

甲子
佐の當社初く清く永福の人あくま

乙未
まの目くは女はま事戸(まきもろん

丙申
あまの目くは女はま事戸(まきもろん

丁酉
あまの目くは女はま事戸(まきもろん

戊戌
あまの目くは女はま事戸(まきもろん

己亥
あまの目くは女はま事戸(まきもろん

庚子
あまの目くは女はま事戸(まきもろん

辛丑
あまの目くは女はま事戸(まきもろん

鶯翠の心へ蟬婿の髪
眉墨 目 たぐりの唇 目 粟粒のまゝ
引くて ス 池のつらみ 目 ねんね
もあふれと思ふ 上青 玉兒 目 かく
なせ髪と猿尻 目 かく 目 ねんね
かみ 目 ねんね 目 ねんね 目 ねんね
天 目 ねんね 目 ねんね 目 ねんね

まの 目 ねんね 目 ねんね 目 ねんね
猿尻 目 ねんね 目 ねんね 目 ねんね
底 目 ねんね 目 ねんね 目 ねんね
白 目 ねんね 目 ねんね 目 ねんね
家 目 ねんね 目 ねんね 目 ねんね
な 目 ねんね 目 ねんね 目 ねんね
有 目 ねんね 目 ねんね 目 ねんね

あはれも... 水と... 池... 蓮の... 花... 思... 南... 佛... 果... 女... 花... 南... 方...
あはれも... 水と... 池... 蓮の... 花... 思... 南... 佛... 果... 女... 花... 南... 方...
あはれも... 水と... 池... 蓮の... 花... 思... 南... 佛... 果... 女... 花... 南... 方...
あはれも... 水と... 池... 蓮の... 花... 思... 南... 佛... 果... 女... 花... 南... 方...
あはれも... 水と... 池... 蓮の... 花... 思... 南... 佛... 果... 女... 花... 南... 方...

南... 花... 南... 方... 蓮... 池... 水... 思... 南... 佛... 果... 女... 花... 南... 方...
南... 花... 南... 方... 蓮... 池... 水... 思... 南... 佛... 果... 女... 花... 南... 方...
南... 花... 南... 方... 蓮... 池... 水... 思... 南... 佛... 果... 女... 花... 南... 方...
南... 花... 南... 方... 蓮... 池... 水... 思... 南... 佛... 果... 女... 花... 南... 方...
南... 花... 南... 方... 蓮... 池... 水... 思... 南... 佛... 果... 女... 花... 南... 方...

南

曲出ア程
位深強居

第

教へられし法乃かごとくびらぬ

道よありよ 是ハ念仏の行方ありてハ

我汝度ニ殊野よあり下向るに慈ん

ぶえりち人私路へかへりて由摩手乃

御寺よありまもちと存作 あり 名程もあぐ

ゆり乳の路乃開らしてサくごちニ殊

2587

路の岩日下はも教あり別日影ゆく書
わぬらして書もつらきまらり
二ふとの麓なるきまらりきよきよ
まらりく 一合は陵公印賦無量
罪去とくれらり 萬諸を教活気
あきつらきまらり 釋迦を全戸
は降のみらひく一節きまらりゆらとれ

南無阿彌陀佛と唱ふまの佛も我も
なつらきまらり 南にほ陵公のきまらり
涼き道も頼もや 湯もまきまぬ
まのき湯もまきまぬの糸巻五
まよいらくまぬ 有縁や諸佛の
物も様もあれまらりく超世衆聖の
とてまらりの中もぬまらりつらきまらり

かゝる清き一室のありては、
申すもあれは當麻寺
まゝ此地のありては、
法乃見佛の法なるを
白念の唯一筋の一不乱
先仁 早良 宗方の孫き入るる
臨一教ありては、

ウノひまうつ。是も故の寶樹とみこる
かゝるくちありては、
多し 高 掛ては、
中 中 しくゆく一なるも、
若も青きよきありては、
朽して 早良 留まらざる

侍... 清... 人... の... の... ま... ひ...
侍... ひ... の... 侍... 掛...
侍... 橋... 花... 錦... の... の...
雲... の... 情... 景... も... 録... 知... も...
侍... 一... の... 誘... ち... 西... 秋... の... 所... を...
侍... 高... 林... の... 曼... 陀... 羅... の... 習... 妻... ち... の... 語... 之...
侍... 抑... 此... 當... 麻... の... ま... した... と... 申... 入... 仁... 王... 四... 十... 七...

侍... 代... の... 帝... 廢... 帝... 天... 皇... の... 御... 宇... か... と... よ... 横...
侍... 萩... の... 女... 人... 長... 豊... 成... と... 申... 入... 了... の... 所...
侍... 息... 女... 中... 將... 姫... 此... 山... ま... こと... り... の... 所... づ... 稱... 讚...
侍... 淨... 土... 經... 毎... 日... 讀... 誦... した... ら... ず... の... 所... 平... 安... 無... 事...
侍... 給... 小... 中... の... 所... へ... 正... 身... の... 所... へ... 集... 迎... せ... 給...
侍... て... 我... の... 所... へ... 集... 迎... せ... 給... こと... 一... 心... 不... 乱... 子...
侍... 親... 會... した... ら... ず... あり... ます... 畢... 命... と... 申... 入... せ... 給... こと...

さうすもや後人よ暇やてゆらこの下は
嶽といふはいふはとさう人さう人と誠を
此居るのほりし山なる故よ及んた高
とる中あり方る坂とのわのほりし
業へありりきり業事よ業とさうあり
かゝり疑ふはるあれは重なる事持を
たうまこと上美しとるありねらうまはる

妙音やしえり。教誨の音陸のまの
あゝらばらるれ鈴よらるらよ
かゝる事乎よ頭事たる中持ひ女の
精魂あり我は保まあり。時称讚淨土
経朝の時よよとる信心誠なりし
故よ微妙安樂の業果の成なり。本
受すはる田圃は心も成りたてま

うらよめ梅いもや本人の付さひひきつらう
名ど名意お人跡よの懸よ吊ひて
しませえし ^レ行よつひにあしき

久き判官殿よつらふ中よとる者あり

^判判官女乃所内の人多き中よおれよ

衣河乃津寂朝もくは信やたがり

牛島持反 ^ツ急房ハ判官女ハ死骸

ろろ辞よえにら女腹まり燭よあて

入およ氣内一忠乃者ぞれをわよハ

びらゆと ままこの我さ女あり

洗山道ハ信や家より捨つれまら

まき絶ぬ思ハハ火の油 ^上つら

あう我名よの静 ^下まら

^判依るおれあふてまらぬわらあて

わらわらうづがくねなご舞のし手うく
うらがく舞とまむてらか入ましく忍とら
悠よ帝しひらるる 秋まき舞の

将東とら勝手り清前よ幼あり
舞舞のいちやうらけるる 舞の精好
吹干き 世公秋の路入りけり
是のうらまのうらあつとて寝るを同

まきれらうと舞よ可もあ舞の衣裳
のうきとられとてく舞入り
清前の舞とほまひらるる皆の事ては
後々く ちかきつちかきつ
あつちあつち
時をしまさう 舞の舞 今み
野入ののる花 ありあつちあつち

上
 行... 院... 御... 義經... 既討... 押渡... 海路... 科... 科... 科... 科...

色... 去... 此... 中... 夢... 上... 清...

右百番者觀世在邊去丈當流
以章句本寫之可秘密拍子付
尚加吟味改正文字板行考也

延寶六

戊

午天仲冬日

寺町通二條上町

寺田与平次板行

